

## 令和4年度第1回宮崎県農政審議会 議事要録

1 開催日時 令和4年8月5日（金）午後1時30分から午後3時30分

2 開催場所 宮崎県水産会館5階大研修室

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

### 4 議事

#### (1) 開会

事務局が開会を宣した。

#### (2) 久保農政水産部長あいさつ

久保農政水産部長があいさつを行った。

#### (3) 会長選任

委員から宮崎県町村会の佐藤町長を農政審議会の会長に推薦する旨の発言があり、他の委員からの賛同を得て、佐藤町長が会長に選任された。

#### (4) 佐藤会長あいさつ

佐藤会長があいさつを行った。

#### (5) 議事録署名者の選任

佐藤会長より後藤審議員と丸目審議員の両名が議事録署名者に指名された。

#### (6) 議事

ア 第八次宮崎県農業・農村振興長期計画における令和3年度の実績について

イ 第八次宮崎県農業・農村振興長期計画における令和4年度の主な計画について

佐藤会長が事務局に説明を求め、事務局からまとめて説明があった後、次のような意見交換があった。

会長 | 青年・女性農業者、担い手の育成者からの視点で御意見があれば伺いたい。

委員 来年、農業委員が改選するにあたり女性農業委員を30%にするため、市町村を回って働きかけをしているところで、女性に対する理解を示して頂くことができた。

委員 県外から農業がしたいと多くの方が来られるが、資金面や栽培技術のサポートがうまく出来ず、続かないこともある。そこをサポートし、関係団体としても勉強しながら一緒にやっていける体制が作られると良い。

委員 酪農に関して、ここ数年新規就農者の数も増えてきて、酪農に興味を持つ方が年々増えてきているのを実感している。そんな中、酪農の始め方が分からないとか、始めるのにお金の支援がもっとあればやりやすいのにとという方が多く、非常にもったいなく感じている。新規で就農される方に対する支援をもう少し手厚くして欲しい。

また、今はコロナ禍で畜産関係の経営は厳しい。後継者がいても離農する方がいるなど、危機的な状況。一時的な支援ではなく、継続的な支援をしていただけると有り難い。

委員 資料3の6ページの⑤に「水田を中心とした農地利用」という項目があるが、40歳目前の息子達の年代は主幹作物ばかりに気を取られており、米を作って農地を守る、地域を守るという意義が弱い。コンバイン代をピーマン代で払っている経営だからかもしれないが、自分たちの代になったら米はつくらないという青年がほとんど。米を作ることで農地を守る、地域を守ることに繋がるんだということの周知をお願いしたい。

委員 和牛生産をしており、将来は子どもが後を継ぐ予定ではあるが、牛も価格が落ちてきており、今般の飼料価格の高騰もあつたりと、このまま継がせるかはよく考えないといけないなと感じている。

会長 次に、スマート農業に関して御意見があれば伺いたい。

委員 私は主に画像解析を会社でやっている。AI化は今すごく見直され、導入もされてきているが、農業という世界においてはまだまだAI化が進んでいないと感じる。これまでビニールハウスでのAI化などに携わったが、費用の問題や普及させるルートがないといっ

た問題があり、ここ10年くらい話が全く進んでいないというのが現状。今は精度も高く、資金も安い形で展開ができるので、それが普及できれば、きちんと休める、旅行も行けるといような仕事の仕方を後継者に提案することができる。宮崎発信で、地方でもこんなに簡単にA I化できるというのを目指せるといいのでは。

会 長 まさにこれからの取組で、D Xは社会の潮流であり避けては通れない。補助制度を含め今後は取り組み方を変えていかなければならない時期だと感じている。

次に、関係団体等の皆さんから御意見を伺いたい。

委 員 第八次長期計画は2年目になるが、ウクライナ情勢など農業をとりまく状況は今までに大きく変化しており、長期計画の表現方法や位置づけなりを変えていかなければならない部分が多少出てきているのではないかと思う。

また、今般のウクライナ情勢と円安などの影響で肥料、燃油、飼料の価格はかなり高騰している。農産物については価格転嫁がなかなかできず、一方的に原価だけが上がってきている状況。

これらへの対応は短期的なものの中長期的なものがあるのではないかと思う。当面の対応として、肥料の価格高騰への補填策をお願いしたい。また、肥料や飼料、燃料関係は値段が上がっていく状況への対応は今現状できても、上がった状態が続くと、これは中長期的な対策が必要になる。肥料については、値上がり分の一部補填の話も出ているが、今後不足する部分が当然出てくるので、その追加支援を県や市町村をお願いしたい。

それから、物価高騰対策に係る生産者への支援の事務処理については、J A以外の方もおられるので、市町村の対応についても県から指導をして頂きたい。

最後に、肥料や飼料の供給体制を含めた農業のあり方そのものを考えていかなければならないと痛感している。やはり、ある程度は自賄いできるよう日本の農業も変わっていかざるを得ないかと思うので、そこを含めた指導を国なり、県なりにお願いしたい。

委 員 水田農業においては米の値段は下がるが、それ以外の何もかもの値段が上がっている状況で、若い人は魅力を感じていないと思う。宮崎市の場合、毎年J Aファームで研修を受けて今年も10名就農したが、皆さん施設園芸が多い。田んぼが空いていても耕作してくれ

る方がいないというのが現状。

農地バンクの中間管理事業は受け手があったら受けるのではなく、予算措置をしていただき、出し手が出したいと言ったら一時預かり、畦畔除去をして効率的に作業ができるようにしていくことも考えていかないと5年後ですら水田農業はどうなるか分からない。

委員 ウクライナ情勢などにより、食料の安全保障について国民の皆さんの関心が非常に高まってきている。農林水産業全般にわたって国を支えていくことが必要な時期に来たのかなと思っている。

国の「経済財政運営と改革の基本方針」を見ると、土地改良関係についても、農地の大区画化、汎用化、畑地化を推進するとされている。県の5年後以降の計画の中でこういったことを反映し、推進して頂くよう検討をお願いしたい。

委員 学生を育てる現場においては現在データサイエンスを勉強させた上で、スマート農業について学び、自動田植え機や自動コンバインを使えるような教育体系、実習体系に変えていこうという話が出ている。まさしくこの長期計画に沿った人材育成をしているところ。

ただこれをやることで学生が本当に就農してくれるかというのと、それは別問題。カッコいい農業、休める農業が必要で、サラリーマン農業が出来るかどうか分からないが、これを実現するのはDXではないかと考え、我々としてはそれに挑戦していくようなカリキュラム体制をつくっていく。

会長 最後に、消費者・販売者の視点から御意見を伺いたい。

委員 先ほど委員からありました人材育成のところでは、魅力ある産業は若手に支持されている。魅力の無い産業だから困ったねではなく、今のプレイヤーの方々に魅力ある産業にさせていただかなければならない。考え方が異なる世代の方々とどうやったら融合できるか、若手がやりたいと思う方法を考えていくというのは、我々の使命だと思う。

委員 民間団体のグループで「子育てネットワークみやざき」というのがある。県は「子育てに優しいみやざき」を目指しておられるので、食生活の面で協力できないだろうかということが話題としてよくあがる。県として宮崎の食材を使った離乳食の提供などにも目を向け

て欲しい。小さな頃から県産品の良さを知ると継続した県産県消に繋がる。

会 長 県の方でも食育に力を入れて事業を行っている。今後いろいろな取組を一緒にできるのではないかと思う。

#### (7) その他

ア 燃油、肥料、飼料等の価格高騰の現状と対策について

イ みやざき農水産業グリーン化推進プランについて

ウ ひなたMAFiNについて

佐藤会長が事務局に説明を求め、事務局からまとめて説明があった後、次のような意見交換があった。

委 員 資料4の中で、化学肥料が高騰しているということで、今後堆肥の利用が多くなるかと思うが、クロピラリドの被害が心配。堆肥の利用については研修会もしていただけないということで、適正な利用を農家にも徹底するようにしてほしい。

事務局 堆肥の研修では、クロピラリド問題もしっかりと指導・周知していく。また、生産現場だけでなく、販売側にも指導していく。

その他会長が意見を求めたが、意見等はなかった。

#### (8) 閉会

久保農政水産部長があいさつを行った。

事務局が閉会を宣した。